



# TOKAI-PRACTISS

# 千

# 字 万 感

東海国立大学機構長・名古屋大学総長  
松尾 清一

70周年おめでとうございます。中部経済連合会(以下、中経連)とは、産学連携に関して以前から様々な取り組みを一緒にやらせて頂いています。昨年からは大学所属として理事に就かせて頂きました。1年が過ぎ、中経連は私にとってより身近な存在になりました。これから私たちの社会や地域が大きく変わっていくこの節目の時期に、産学連携を飛躍的に強化する必要があると考えており、良いタイミングであったと思います。

名大総長に就任する前から産学連携を担当していた私にとっては、地域と大学の発展のために産学連携は不可欠であり、個別の教員ではなく大学が組織的に取り組むべき事業であると考えてきました。この間、名大は大学改革を鋭意進めて実績を挙げ、全国的にも産学連携や改革に熱心に取り組む大学として認められています。一方で私は、知恵の泉の源である研究者が自由な発想で世界屈指の研究成果を挙げること、多様な分野でリーダーシップをとれる卓越した人材を育てること、世界及び大学外の多様なセクターと広く交流して視野と目標を広く高く持つこと、そして、その活動を支える財務経営やガバナンスを確立することを同時に進めることが重要であると認識しています。

社会と広く連携して国立大学としてのミッションを果たすことを具体的にカタチにしようとしたのが、TOKAI-PRACTISS(Plan to Renovate Area-Chubu into Tech Innovation Smart Society)であり、大学連合が産業界、自治体、国などと広く連携して、中部地域を人間中心のSociety5.0に変えていくことを掲げました。昨年4月には、岐阜大学と名古屋大学の法人統合(経営統合)により東海国立大学機構が産学連携の核として誕生しました。また、新産業を創出するために欠かせないスタートアップベンチャー育成のグローバル拠点都市認定にあたっては、中経連とタッグを組み、名古屋市、愛知県と連携して組織的に取り組みました。しかし、これらは初期の成果であり、最終目標はあくまで多様な連携でTOKAI-PRACTISSを実現することです。このような計画は、他のセクターのビジョンと基本的に方向性は一致していると思いますので、ぜひ力を合わせて、この地域の明るい未来が創造できればと願っています。